

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	松宮 幹雄	法人・事業所の特徴	郊外の田園に立地しているため、自然豊かであり、季節感を感じることができます。当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、畑作業と一緒にいき、地域行事、奉仕活動に参加し、地域住民が気軽に声を掛けていただけるよう、馴染みの関係作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	小山 祐司		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	・施設内でのケアが中心ではなく、在宅生活を継続していく上での問題、課題に対してアセスメントを行い、全スタッフが、在宅生活が継続できるよう話し合い、実践につなげていく。	・日々の生活の中で利用者の思いを聞くことで、「～したい」という思いが実現できるような関わりを心掛けた。今年度は「昔出掛けた東尋坊へもう一度行きたい」と言われた利用者として、歩行訓練や生活リハビリ（机を拭く、洗濯を干す、散歩など）を継続して行うことで、意欲、体力が向上し、自分の足で東尋坊を散策することが出来た。 ・毎日ミーティングを実施し、在宅における問題解決にむけて話し合いを行い支援している。家族との会議にはケアマネジャーと担当職員が参加し、状況に応じて泊り、訪問、通所を柔軟に対応している。	・言葉で訴えることが出来ない利用者とのコミュニケーションがうまく取れていないため「～したい」という思いを十分に把握できていない。家族との情報を共有し、自宅での様子をアセスメントし問題課題をしていく必要がある。	・担当職員を中心に、利用者やその家族の思い、困りごとについて情報収集を行い、利用者や家族の思いに沿ったケアを実現していく。 ・介護者家族のつながりをつくり日頃の介護の悩みを共有しお互いに支え合える場として、家族の会を開催する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・新型コロナウイルス感染対策の継続を行いながら、利用者の楽しみや生きがいを持つような環境作りを行っていく。	・アクリルパネルの設置、マスク着用、アルコール消毒、換気を定時に行い、感染対策を行いながら活動を行った。コロナ禍ということで、家族や地域の方の出入りは制限している。	・自分の意思が伝えられない方からの聞き取りが難しく、全ての利用者の楽しみや生きがいを持つような環境作りはできていなかった。	・利用者、家族から生活歴や自宅での様子を再アセスメントし、居心地の良い場所になるように環境作りをする。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策をしながら地域活動に参加していく。畑仕事や神社での奉仕活動を継続し地域との顔見知りの関係性が継続して築くことができるよう機会を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策の為、地域行事への積極的な参加は出来なかったが、神社の草むしり、畑活動を行った。</li> <li>・一人暮らしの利用者については民生委員、隣人への挨拶を行い緊急時の連絡先を伝え連携を図った。地域会議に参加し利用者を取り巻く環境、支援についての話し合いが出来、支援につなげた。</li> <li>・デイホームにて岡保地区住民と健康体操、口腔体操等を行い交流を図った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策の為に地域の方と利用者との直接的な関わりが実施できなかった</li> <li>・事業所と曾万布住民が交流できる場があると良いのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の声を聞き、より良い関係性を持ちながら、利用者の在宅生活を継続するための協力体制を整える</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人との繋がりや、馴染みの店との繋がりをサポートしていく。在宅生活を続けるために、社会資源を活用して支援ができるようサポートしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(友人、近所の人、馴染みの店、民生委員)について、本人、家族からの聞き取りを行い、ミーティングで共有した。</li> <li>・利用者の馴染みの店に、ケアマネジャー、担当職員が挨拶に行き、協力が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(友人、近所の人、馴染みの店、民生委員)についての情報収集が重要であり、今後も継続する必要がある。</li> <li>・ケア会議に地域の方も参加できるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(友人、近所の人、馴染みの店、民生委員)について本人、家族から情報収集を行い、繋がりを持ちながら利用者の在宅生活をサポートしていく。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を通して、地域の方の意見を聞き、小規模の活動に反映していく。(開催できない場合は、日常の関わりの中で意見を聞く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ予防対策として運営推進会議がほとんど開催できず、会議の中では地域の方々の意見を聞く機会が少なかった。</li> <li>・奉仕活動等に参加し、関わりをもつ場に出向いたが、関わりをもつことが少なく、意見を聞くことはできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方から「関わりが少ない」という意見があり、コロナ感染予防をしながら検討したが、高齢者施設のため反映するに至らなかった。</li> <li>・運営推進会議の中で、地域の方の要望を伺う時間を設けるとよいのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議においてアンケートを実施しより多くの意見を聞けるよう工夫・改善を図る。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな状況でも安全に避難できるように避難経路、方法の確立を行う。災害マップを再度確認し、避難ルートを確認を行い地域の方と連携を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に二回、防災訓練を実施したが、コロナ予防対策として地域の方は参加できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携を図るために、地域の防災訓練に参加できると良い。</li> <li>・(地域の方より)災害時は、頼りにしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の防災、災害対策について、地域の方と情報を共有し、地域の防災訓練にも参加する。</li> </ul>